

## 未来を見据え、 もうはじめていること。 続けていくこと。

コーポレートスローガンをはじめとする理念体系の一新、という目標を掲げ「夢共創プロジェクト」をスタートしたのは、2016年1月。創業100周年を迎える1年8カ月前でした。

並行して、社長を委員長とするCSR委員会を発足させ、企業活動すべてがCSR活動という視点で、あらためて私たちと社会との関係を見つめ直しました。

2017年4月に、新理念体系を発表。これからの課題は、新しい企業理念を社員一人ひとりが“自分ごと”として捉え自主的に行動すること、企業として社会の要請に対する課題に対応していくこと、そして、森永乳業らしい社会貢献活動を展開していくこと。

これからも、森永乳業は、すべての企業活動をCSR活動と捉えて、「かがやく“笑顔”」を実現していきます。





2018年4月  
**「国連グローバル・コンパクト」(※)  
 署名**

森永乳業は、国連が掲げる「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」に関わる10の原則に賛同し、国連グローバル・コンパクトに署名しました。

2017年4月  
**新理念体系発表**

「夢共創プロジェクト」から生まれた、新しいコーポレートスローガン「かがやく“笑顔”のために」を2017年4月1日に発表。加えて、経営理念、行動指針を刷新しました。(→P4)

2016年1月～  
**夢共創プロジェクト**

創業100周年を前にして、コーポレートスローガン、経営理念、行動指針を含む理念体系を策定するために、「夢共創プロジェクト」をスタート。「私たちはこれからどんな会社を築いていきたいのだろうか?」という全社員アンケートをもとに議論を重ね、有志の社員が参加したフォーラムを2日間にわたって開催しました。

2018

2017

100周年!

2016

2018年2～5月  
**重要取組課題策定**

2017年のSDGs勉強会を発展させ、全4回のワークショップを行い、森永乳業が今取り組むべき7つの重要取組課題を策定しました。(→P9)

2017年5月  
**SDGs 勉強会**

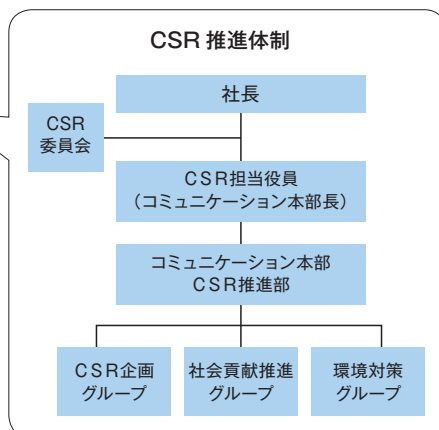
さまざまな部署・役職の社員が参加し、「SDGs勉強会」を開催。外部から専門家を講師に招き、SDGsと自社の企業活動との関わりについて、サプライチェーン全体を視野に検証しました。

2016年6月～  
**CSR 推進部スタート**

それまで広報部内にあったCSR室を独立させ、新たに「CSR推進部」が発足。理念浸透活動、環境対策、社会貢献の推進、ESG情報の発信などを中心に、社内の関係部署と連携しながらCSR活動を行っています。

2016年7月～  
**CSR 委員会発足**

社長を委員長とするCSR委員会が発足。CSR推進部が事務局を務め、半年に1度委員会を開催。「CSRは経営そのもの」と捉え、全社的なCSR活動の基盤構築に着手しました。



※国連グローバル・コンパクト  
 各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会のよき一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み。これに署名する企業・団体は、人権の保護、不当な労働の排除、環境への対応、腐敗の防止に関わる10の原則に賛同する企業トップ自らのコミットメントのもと、その実現に向けて努力を継続する。世界約160カ国で1万3000を超える団体(そのうち企業が約9,800)が署名している。(2018年5月時点)

## 7つの重要取組課題を策定しました

「かがやく“笑顔”のために」

このコーポレートスローガンに基づき、

森永乳業は7つの重要取組課題を策定しました。

次の100年に向けて、サステナブルな社会をつくるため、

そして人々の健康に貢献する企業でありつづけるための指針となります。

### 健康・栄養

P15



「かがやく“笑顔”」を実現する機能性と嗜好性を兼ね備えた商品を開発・販売し、健康・栄養をお届けします。

- 「栄養価の高い商品」「嗜好性の高い商品」に対する社会のニーズは高く、また、中長期的には高齢社会が加速することは避けられません。森永乳業独自の研究開発力で、心身ともに健康な社会生活の実現に貢献することをめざします。
- 人口減少・高齢化が進む中、商品力だけでなくライフスタイルを変革する技術やサービスの創造・提供をめざします。

### 環境

P21



省エネルギー、廃棄物削減に取り組みながら安全・安心な商品を製造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

- 「気候変動」「森林」などに与える影響を考慮した企業活動を実践します。
- 限りある資源を有効に活用するためにも、食品ロスの削減に取り組むことを急務とします。

### 次世代育成

P35



サステナブルな社会づくりに貢献する次世代を育成し、未来をつくります。

- 子どもたちの明るい未来のために、森永乳業は心身の成長やキャリア教育、そして子育てを支援する活動を行っています。

### 人財育成

P39



「かがやく“笑顔”」を実現する人財の育成に力を入れていきます。

- 新入社員から経営層まで幅広く人財を育成することは、企業の持続的な成長につながります。一人ひとりの適性を活かし、能力をのばすことのできる制度構築をめざします。



## 人権

P27



人権に配慮した事業活動を行い、多様性を尊重し、あらゆる人々が能力を十分に発揮できる環境をつくります。

● 持続可能な社会形成のために、「人」は特に重要な経営資源だと考えています。すべての人の「かがやく“笑顔”」を実現するために、ダイバーシティ(多様性)の推進をはじめ、様々な人権課題を社外関係者とともに協力して取り組んでいきます。



## 供給

P31



環境・人権に配慮した原材料を調達し、安全・安心を重視した製造を経て、高品質な商品をお届けします。

● 将来的な乳原料の不足に備え、新たな乳原料を使いこなせるよう研究所や工場などと協働しながら、配合設計の研究を重ねています。  
● 安全は、当社の中でも最も重要な取組項目です。現在もやっている安全への取り組みを、引き続き実施していきます。



## コーポレート・ガバナンス

P43



持続的な成長と企業価値の向上の実現に向けて実効性の高いガバナンス体制の整備および充実に継続的に取り組みます。

● ステークホルダーとの対話、積極的な情報開示を通して、適切なコミュニケーションをはかっていきます。  
● 経営層からの継続的なメッセージとともに、ルールの整備、従業員の意識の醸成、サプライヤーとの公正な取引など、内部統制の構築に取り組んでいます。

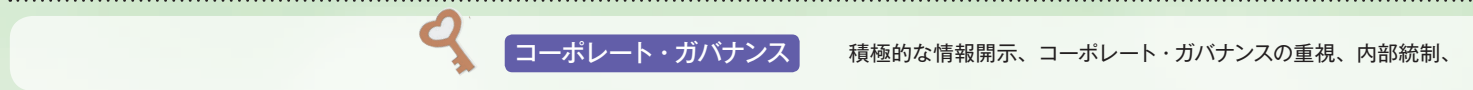
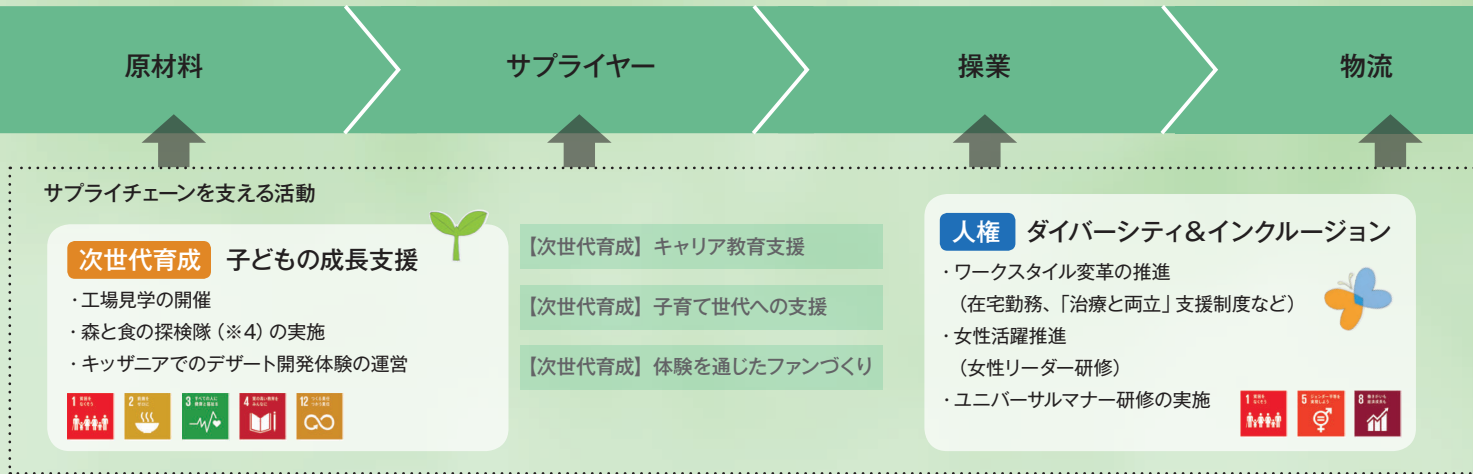
# サプライチェーン全体で課題を抽出し、取り組んでいきます

原材料の調達から製造、販売、廃棄に至るまで、食品メーカーの活動は多岐にわたります。

2018年5月、森永乳業はサプライチェーン全体で、7つの重要取組課題（→ P9～10）を策定しました。

課題解決のために当社が行う具体的な取り組みを決め、その中で特に重要だと思われる項目を特定しました。

各部署・部門が連携し、重要取組課題に取り組んでいます。



※1 人間の舌が感じられる限界に近い薄さの五味（甘味、塩味、酸味、苦味、旨味）を判断できる人にもみ与えられる、森永乳業独自の認定資格のこと

※2 アレルギー用ミルク、低体重出生児用ミルクなどのこと  
 ※3 安全かつ効率的な殺菌が可能な微酸性電解水のこと

□ =重要な取組項目

**健康・栄養**

**健康と栄養に配慮した商品の研究開発と販売**

- ・成長をサポートする育児用食品の研究開発と販売
- ・機能性商品の研究開発と販売
- ・独自素材の研究開発と販売
- ・特殊ミルク(※2)の研究開発と販売



**健康・栄養**

**ライフスタイルを変革させる技術や素材の研究開発**

- ・アルツハイマー抑制の可能性がある「ビフィズス菌 A1」の研究
- ・ピュアスター水(※3)の開発



【健康・栄養】乳などの独自素材を活かした商品の研究開発と販売

【健康・栄養】嗜好性の高い商品の研究開発と販売

【健康・栄養】栄養価の高い商品の研究開発と販売

【健康・栄養】心の健康を高める商品開発と提案

【健康・栄養】人以外(ペット、家畜)の健康・栄養に向けた研究開発と販売

【人権】ユニバーサルデザインの採用

**環境**

**食品ロスの削減**

- ・賞味期限の見直し
- ・ウェブページを通じての情報発信



【環境】環境健康情報の生活者への啓蒙

販売

使用・喫食

廃棄

**人財育成** 社内活性化

- ・能力開発(各種研修など)
- ・夢共創理念フォーラム(※5)開催
- ・生き生きプロジェクト(※6)
- ・キャリア調査(※7)



【人財育成】職場活性化

【人財育成】自己啓発支援ツールの充実と活性化

【人財育成】海外事業展開に必要な人財の育成

【人財育成】キャリア(中途)採用者に対する当社の理解促進体制の構築

サプライヤーなど取引先との公正な取引、ステークホルダーとの対話、正しい情報発信、適切な資金の確保、適切な原価管理

※4 子どもたちが那須の森林で共同生活を行いながら自然にふれ、自分に向きあう野外教育活動のこと  
 ※5 経営理念を実務に落とし込み、自分ごととするための社員参加型のフォーラム

※6 社員が生き生きと働く企業風土を作るための調査・実行・振り返りを行うプロジェクトのこと  
 ※7 年に1度、社員が自身のキャリアを振り返り、勤務状況や勤務希望などを会社に伝える調査

かがやく笑顔あふれる  
豊かな社会の実現

# 重要取組課題は これからの100年に向けた第一歩

## 「かがやく“笑顔”」をめざして 求められる7つの課題を策定

森永乳業は、2017年4月、新コーポレートスローガンを含むグループ理念体系を策定し、発表しました。2018年、次のステップとして行ったのが、重要取組課題の策定です。

重要取組課題は、私たちの大きな目標である「かがやく“笑顔”あふれる豊かな社会の実現」をめざすために特に優先的に取り組むべき項目です。

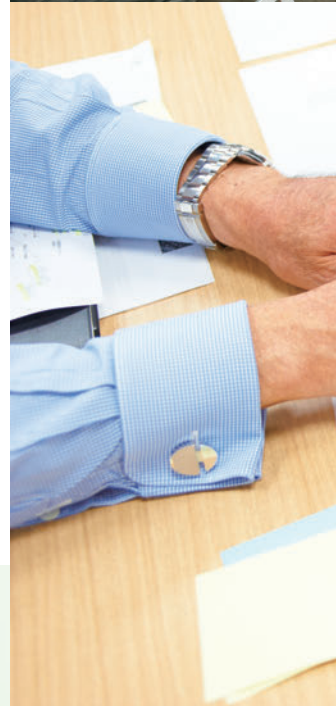
策定にあたっては、計4回にわたるワークショップを開催。さまざまな部署から約30名の社員が参加し、取り組むべき課題を抽出しました。そして協議を重ねて7つの大きな課題を策定し、CSR委員会で承認されました。(→ P9-10)

## 持続可能な社会への 貢献をめざして

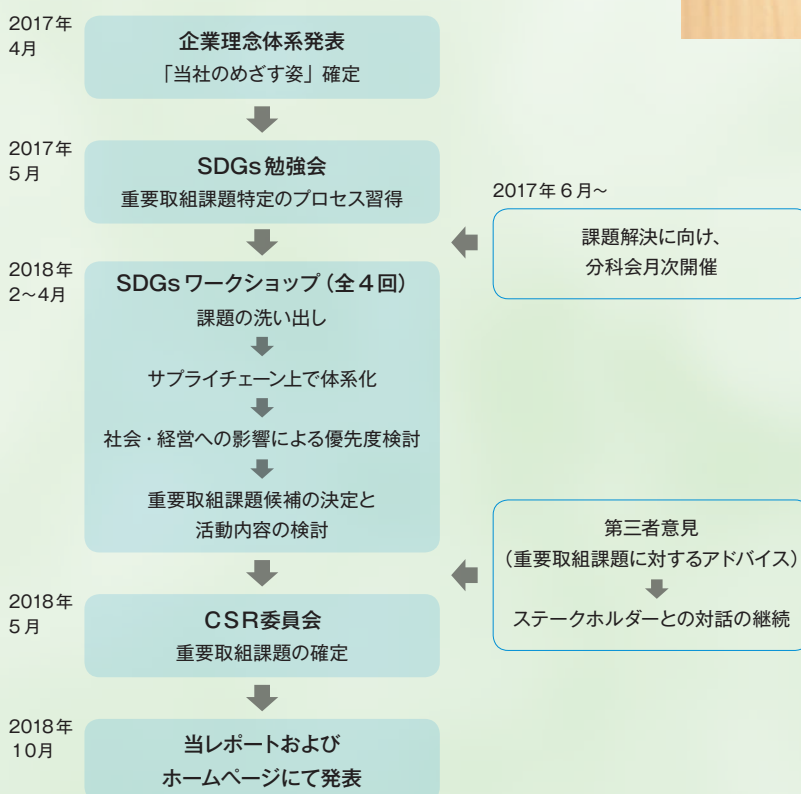
策定にあたっては、行動指針はもちろんのこと、GRIガイドライン、ISO26000、国連が提唱するSDGsコンパスなどを参考にしました。

策定した重要取組課題への取り組みを通じ、森永乳業が企業市民として持続可能な社会の実現に貢献できると、私たちは考えています。

重要取組課題が、SDGsのどの目標と関連するかは、前項(→ P11-12) および各重要取組課題の扉で示しています。



### 重要取組課題策定の流れ





自然と議論も熱くなるワークショップ風景

今後の課題

## ステークホルダーとの対話と KPI の設定

今回策定した重要取組課題は、変化する社会の状況やステークホルダーの声を踏まえ、適宜見直していきます。

2017年のSDGs勉強会でご指導いただいた経済人コー円卓会議日本委員会 石田 寛氏からは、「サプライチェーンを見据えて網羅的に整理し、多くの関連する部門が参加し、まとめたプロセスは評価できる。今後は潜在的リスクの抽出、認識の公表、対策に期待する。国連『ビジネスと人権に関する指導原則』に則って企業活動を行うことを宣言すること、そのためには、人権方針の策定が急務である」とのご意見をいただきました。

より多くのステークホルダーとの対話の場を大切に、時代・社会に即した課題解決に努めていきます。

また、次のステップでは、重要取組課題のKPI(※)を設定し、それぞれの取組項目の進捗状況や達成度を公表することをめざしています。

※ KPI: Key Performance Indicator  
活動の進捗状況や達成度を客観的に評価・管理するための数値指標。

## 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals) は、国連が定めた持続的な開発に関する17の目標と169のターゲット。2015年に採択され、2030年までに達成することをめざしています。「誰一人として取り残さない (Leave no one left behind)」を基本とし、経済格差、持続可能な消費や生産、気候変動対策など、世界が抱える問題を解決するために、各国政府や NGO だけでなく、民間企業もまた日々の活動を通して、取り組んでいくことが求められています。

森永乳業は、このSDGsの達成に寄与することをめざしています。

